

人生を拓く

63

林

次男さん(79)
仲枝さん(78)
|| 第13北 ||

次男さんの祖父母・末吉さんとすゑさんは1907(明治40)年に岐阜県大垣から東川町に移住。次男さんは二一(にいち)さん(68歳没)とハツヨさん(93歳没)の9人兄弟の6番目に生まれました。中卒後、兄が就職していたのと、父の「百姓は食べるのには困らない」という言葉に魅力を感じ、家業の農家を手伝うことに。父は多くの公職に就いていたため、農業は自分が頑張るしかないと思ったそうです。仕事が多忙のため通信教育も断念し、「進学した同級生がうらやましかった」と言いつつも、「孫に、どこの高校に行ったの?」と聞かれたら「親孝行」と答えるんだ」と朗らかに笑います。

22歳のとき、叔母の勧めでお見合いし結婚。その後農業委員、農協理事、土地改良区理事など農業関係の公職を30年務める中で、常に考えたのは後継者不足。先祖が開拓した東川の水田3千畝を効率よく管理するには…。そこに、国営緊急農地再編整備事業(農地の大区画化)という話が北海道開発局から持ち上がります。当時、土地改良区の理事長だったため、このチャンスは逃せぬと2010(平成22)年から町長や農協組合長と共に何度も東京へ陳情に行きました。やがて2012(同24)年の春、大区画化が認められ、2016(同28)年から着工。全てが大区



画化されるのはその15年後です。「将来は百人規模で水田を作ることで後継者不足は解消される。壮大な水田風景を想像すると感無量になる」と語ります。

仲枝さんは、畑中蓬吉さん(85歳没)とトシさん(83歳没)の7人兄弟の4番目として東神楽町八千代ヶ岡に生まれました(同地区にある牛の像は先祖が建立)。中卒後は家の酪農業を手伝い、結婚したのは21歳の時。決め手は見合いの席で会った次男さんの母の第一印象だったそう。「とても人当たりが良く、この人が年を取って寝込んだら面倒をみたいと思った」といいます。結婚後に初めて水田を作り始めましたが、「失敗しても嫁ぎ先の皆が優しく接してくれた」と懐かしみます。やがて姑さんが老衰で寝たきりになると、自宅介護を決意。亡くなるまでの4年間、一緒に寝たそうです。

次男さんは母・ハツヨさんを見送った後、仲枝さんのために「介護、苦労さま旅行」を計画。四十九日の席でその話を聞いた兄弟から拍手が沸き起こりました。

そんな思い出深い人生を送ってきたお二人は、子ども2人と孫6人、ひ孫3人に恵まれています。今は夫婦で野菜作りをしながら、次男さんはカメラ、仲枝さんは花づくりにいそしみ、盆正月に集まる家族の笑顔が楽しみだそうです。

俳句

孫釘づけ毛虫もぞもぞ地べた這う
 睡蓮や何事かあらん池の底
 水無月や数多の命田に畑に
 雨音をくるりと回すかたつむり
 空豆のようなところで自己主張
 雲一朵残せし空や芋の花
 緑陰にそよぎし風を讃えあふ
 雨傘を吸い込む校舎半夏雨
 スケルトンフラワーとソウグウ汗の引く
 点滴を受けたるごとく喜雨の畑
 肩に背にあの子の髪に初ほたる
 スカートを好きになった子さくらんぼ
 暑中見舞い降り注ぐポプラ綿毛

本 田 咲
 斎 藤 夕 桜
 山 内 み ゆ
 八 田 昌 代
 小 林 ろ ば
 石 澤 清 宏
 杉 山 ひろのり
 杉 山 り つ
 横 田 則 子
 高 瀬 潤
 三 島 智
 若 田 郁
 佐 々 木 り え

